

## 平成30年度第1回南あわじ市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成30年5月24日(木)

午前10時05分開会

午後 0時05分閉会

2. 場 所 南あわじ市役所 第2別館 第5会議室

3. 協議事項

(1) 学校再編について

(2) 今後の教育のあり方について

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

〈南あわじ市〉

南あわじ市長 守本 憲弘

教育長職務代理者 數田 久美子

教育委員 岡 一秀

教育長 浅井 伸行

教育委員 轟 孝博

教育委員 宮崎 典弘

〈学校組合〉

管理者 守本 憲弘(兼務)

教育長職務代理者 狩野 時夫

教育委員 宮崎 典弘(兼務)

教育長 浅井 伸行(兼務)

教育委員 數田 久美子(兼務)

教育委員 本條 滋人

5. 事務局関係職員氏名

総務企画部付部長 青島 一路

教育次長 山見 嘉啓

学校教育課長 山川 直樹

体育青少年課長 原口 言美

教育総務課課長補佐 板野 あゆ美

ふるさと創生課長 栄井 賢次

教育総務課長 中村 尚之

社会教育課長 福田 龍八

青少年育成センター所長 永田 加織

教育総務課課長補佐 新地 美里

開 会 午前10時05分

【中村教育総務課長】 失礼いたします。

皆さまお揃いのおようですので、只今より、平成30年度第1回南あわじ市総合教育会議を始めたいと思います。

(出席者の紹介)

本日の総合教育会議におきましては守本市長より傍聴を許可しております。傍聴される方は南あわじ市総合教育会議傍聴要領に準じて傍聴されますようお願いいたします。あと、本日の議題の学校再編につきましては今いろいろと協議中でありまして、この件に関しましての本会における委員からのご意見は南あわじ市教育委員に限定させていただきたいと思っておりますので、何卒ご理解下さいますようお願いいたします。

それでは、主催者であります守本市長より、ご挨拶をよろしくお願い申し上げます。

【守本市長】 朝早くから、おはようございます。

本日は、平成30年度第1回の南あわじ市総合教育会議ということでございますが、教育委員の皆さま方には大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私も昨年から、この総合教育会議に参加させていただいておりますが、非常に活発にご意見を頂戴しながら、南あわじ市、また、組合の方向性についてご議論いただいているということで、大変ありがたく思っております。また、今日は大変多数の傍聴の方にお越しいただいております、教育のプロセスもこの総合教育会議も、もともと傍聴可能ということで、開かれたプロセスにしていこうというようなことになりましたので、本日は名実ともに、そういう形になっているのかなというように思っております。また、本来でしたら挨拶のところで、私の思い等を提唱するところがございますけれども、本日はそういう時間もまた別途いただいておりますので、それはまた後ほどさせていただくことにいたしまして、本日は盛りだくさんの、また非常に重要な議題が多数あがっておりますので、活発なご議論をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

【中村教育総務課長】 次に本日の協議事項に入ります。

それぞれの項目ごとに事務局より説明を申し上げたいと思います。

進行につきましては守本市長の方でよろしくお願い申し上げます。

それでは、よろしくお願いいたします。

【守本市長】 それでは議長ということですので、よろしく願いいたします。

進行については、協議事項について事務局より説明させていただいて、皆さま方にご審議いただくという形で進めさせていただきます。

最初に「学校再編について」でございます。4件ございますけれども、まとめて事務局から説明をしていただいで、それについてご意見を頂戴するというふうにしたいと思っております。

それでは、事務局から説明お願いいたします。

【山川学校教育課長】 それでは資料3頁をご覧ください。学校再編について5月8日から10日にかけて、第2回の説明会を各地区で開催しました。掲載順に概要についてご説明させていただきます。

まず西淡志知小学校地区ですが、5月9日40名の参加がございました。要点として8点あげておりますが、その中で絞って説明させていただきます。1点目「志知地区はまだ児童が増える可能性がある。志知に小学校を残してほしい。」、2点目「志知13地区全区長の印を押して要望書を提出してある。そのことを教育委員会で、しっかりと議論されたのかどうか。」、3点目「こちらは、要望書のとおりまとまっている。前と同じ話をされても納得がいかない。」、とぼしまして最後の8点目「このままでは、お互いに平行線で進まない。それぞれの代表が集まって対話する場を設けてもらえないか。」というような意見が出ておりました。

三原志知小学校地区は、5月8日参加者47名でした。要点の4点目「同じような規模の倭文小や湊小はなぜ統合しないのか、なぜ志知なのか。」、5点目「『合併に関わる各種事項は第三者委員会（検討協議会）を設け公平に評価し決定して頂きたい』と要望している。第三者委員会を立ち上げてほしい。これは両地区で出ている意見です。6点目「市は陸の港に新しく施設を建てて、活性化しようとしている。この地区にはポテンシャルがあると市長も言っている。そこにある小学校をなくすのか。」、7点目「次世代の学校・地域創生プランにあるように、学校を核として地域の創生をしていくそのモデル校に志知をしていくのはどうか。」という意見が出ておりました。

要望書はすでに、市長、教育長のもとへ出ておりますが、要望書の主張点として2点掲載させていただいております。「志知地区の2校を1校に対等合併として進めていただきたい。」ということと、「第三者委員会を設け公平に評価し決定していただきたい。」ということです。

まとめといたしまして、掲載しております。1点目「両地区とも、要望書の2点が主張点で変わりはない。市教委案に賛成の意見はなく、平行線のままであった。」、2点目「志知から小学校がなくなることで、志知がさびれてしまう。地域の核として志知に小学校が必要であるという意見は根強い。」、3点目「志知の両地区で意見はまとまっているとの主張。それぞれの地区で独自に取ったアンケートで、『統合するなら、

市小と答えた59%の三原志知小の保護者、松帆小と答えた30%の西淡志知小の保護者』がいる。この人たちの考えはどうか、志知小で本当に賛成なのか、疑問が残る。」、4点目「倭文小・中、湊小など、他校を引合いに、志知だけが統合になるのはおかしい、不公平だという意見も両地区で出ている。もっと大きな合併ならいいとのことである。」、5点目「第三者委員会で、話し合っしてほしいとの意見だけでなく、代表者での対話の場を設けてほしいとの意見も出た。」、6点目「回答については、教育委員会・総合教育会議を経てからになると伝えた。」ということです。

続きまして、5月10日倭文中学校地区の説明会ですが、このときは、地域の方は地域づくり協議会の改選時期であるということで、今回は倭文小学校の保護者のみを対象に行いました。市教委案としては、この前お諮りいたしました合同部活動ということで提案しております。意見として8点あげておりますが、その中で1点目「部活が一緒になるのは反対。部活の時だけ一緒になる子どもの心理面が心配だ。」、3点目「学校を選択できないのか。学校で生活をしてからの部活なので、そんなことをふまえて学校を選べるようにしてほしい。」、6点目「子どもは三原中へ行かせている。人数の多いところへ行かしたいので、三原中を選んだ。部活だけ倭文中から三原中へ行くのは大変だ。」、最後の8点目「倭文中へ行って、多様な選択肢から部活動を選べるというのはいいこと。」というような意見でした。

まとめとしまして、1点目「多様な選択ができるようにとの提案であったが、賛成意見は1名で、他は全て反対の意見だった。」、2点目「本市の就学は原則学区制であり、学区内の中学に就学すべきものであるが、『部活動を理由にすれば自由に学校を選べる』という感覚が強く、地域の学校としての想いはほとんど感じられなかった。」、3点目「そのため、合同部活動をすることによって倭文中にしばられるという受け止め方をしている保護者が多い。」というように感じました。4点目「合同部活動の制度自体も、無理をして作成したところもあり、また、現場の教員の意向がほとんど反映できていないため、実施上の課題も多い。」と認識しております。5点目「ほとんどが反対であり、合同部活動の整備も不十分であることから、来年度からの実施は難しいのではないか。」と考えられます。最後に6点目「また、合同部活動に対するアンケートを取っほしいとの要望があるので、保護者の意向を把握する意味でも、実施すべきかどうか。」というところを検討いただきたいと思います。

最後に沼島小中学校の方で説明する際の資料を添付させていただいております。来週5月29日の夜に説明会を行います。こちらは離島ということですので、再編という形よりも小中一貫学校での説明、もう少し具体性をもった説明ということで予定しております。以上です。

**【山見次長】** 少し補足させていただきます。

既に各委員にはご報告申し上げておりますが、西淡志知及び三原志知両地区自治会

と保護者代表の連名により4月23日教育長へ要望書を提出いただいております。また5月18日に市長へ両校小学校の統合についての要望書をいただいております。参考に写しを机上に配布させていただいております。以上です。

**【守本市長】** 事務局より説明が終わりました。

ただ今の説明で、教育委員会としての方針と、西淡志知・三原志知と倭文中学校について、それに対する保護者等、地元側からの意見が紹介されたということでございます。こういう状況を踏まえて、今後どういう対応、方針で進めるか、各委員からご意見等をお伺いしたいと思います。本件は、南あわじ市の教育委員ということで、まず数田委員からお願いしたいと思います。

**【数田委員】** 学校教育の中では、どういう人間を育てていくかということが一番基本に考えなければいけないと思います。その中で、小規模校のメリット・デメリットはあると思います。今、少子化の中で、私の孫も阿万小学校で1クラスばかりでどうなるのかなと思いついて見えておりますが、小規模校のメリットとしては、一人ひとりの子どもの細かいところまで観察したり指導ができるのですが、逆に子どもたちにとって、人間関係が固定的になるという点で、何度も言っておりますが、私自身、倭文小学校・中学校出身なのですが、その中で自由さを奪われたり、自分の成長のチャンスみたいなものがなかなか出せなくて、高校に行った時に非常に解放感を味わったという実感を持っております。そういう中で、例えば、私の親戚の話になりますが、小学校で学年5名という中で、人間関係が非常に固定的で、いじめではないのですが、合う・合わないというのがあって、淡路島の話なので、中学校は島外に出ようと親子で真剣に考えたということを知りました。そんなところで、一人ひとりきめ細かく生徒を見れるという反面、固定化すると子ども自身の日々の生活がいきにくいということがあると思います。そんな中で不登校が始まったり、引きこもりとかになったり、そのような相談を受けるのですが、小・中学校の場合は人間関係が原因というのが圧倒的ですし、大人で10年、15年と引きこもっている人の原因もやはり大多数が小・中学校の時のいじめが原因で、それから30・40歳になって仕事をしたけど、やはりいじめのトラウマみたいなものがあって良い人間関係を構築できずに引きこもっているという話をよく聞きます。それは大規模校・小規模校の両方にはあるのですが、一つの原因としては、固定化した人間関係の中では、なかなか自分を出せなくて、こぼれがちで、ふさがちというのは、それが原因となっていることがあるということです。それと、私は高校教師を南あわじ市でやってたのですが、小規模校から来た生徒はなかなか大規模校に馴染めなくて、小・中学校では非常に大事にされて、きめ細かな指導をしていただけたけれど、高校ではきめ細かく見てもらえないし、自分も出せない、今までであれば、家族間のように何か欲しいものがあれば、欲しいものを言う前に、

先に欲しいものがもらえるような家族関係と同じで、小規模校ではそのいうことが可能でありました。「この子はこういうことをしてほしいんだな」というように先回りして見てもらえてました。ところが高校ではそういうわけにはいきませんし、その中で人間関係が上手くいかなかったり、馴染めなかったり、もちろん教員にも上手く自分のことが言えなくて学校を去ったような例も多々あります。私たちの力不足もあるのですが、そういうことも踏まえて、出来るだけ小さい頃からいろいろなことに対応できるように、今は世界で活躍する子どもを育てるといような方向でもありますし、もちろん地域も大事にする子どもたちであってほしいのですが、そんなことを総合的に考えた時に、小さい頃から大勢の中で、自分も出せるし、また人とも上手くやっていけるような現場であってほしいということで、今、教育委員会が出している方針で進めていってほしいと思います。ただ、時間をかけてもっと地域と対話を続ける必要があると思います。

倭文中学校に関しては、もともと倭文中学校というのは高校の学区制があった時代から、自由に洲本方面・三原方面のどちらにも行けたという経緯があって、地域にはそういう意識があるような気もいたします。だから「無理に」というのがなかなか馴染めなくてご理解いただけないところがあるのではないかと思います。我々の世代は、洲本方面・三原方面にどちらでも行けた時代でしたので、そのように思います。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

轟委員お願いします。

**【轟委員】** 数田委員とほとんど同じような意見になりますので、1点だけ、倭文中学校の再編についてですが、保護者の意見の3番目のところで、「部活が全てではない」という親御さんの意見で、部活だけ三原中学に行くのは生活面でしんどいのではないだろうか、一緒に中学生生活をやりながら、部活動もやりながらというのが望ましいという内容ですので、やはり三原中学校の方に行って部活動をやらせてあげたいというのが、親の要望じゃないかと思います。これが本音じゃないかなと思っております。学校が終わってから、バスで三原中学校まで送って部活動をするということは親としては心配なんだろうと思います。もし私の子どもがそういう状態であれば、私もそのように思います。やはり門戸を広げて、倭文の子どもが、三原中学校に行かすような形が良いのではないかと思います。そうすれば、自ずと倭文中学校の人数が減って、学校自体ができなくなるような状態になるので、再編という形になるのではないかと思います。

沼島小中一貫学校については、9年間の一貫教育ということですが、それでも人数的には小・中合わせて30年度は18名、31年度で13名ということで、9年間ど

のように勉強していくのか教育の方向が大変だなと思います。研究して教育していただけだと思いますが、31年度は中学校2名、小学校11名で、どのように授業をしていくのか。私は小規模校に行ったことがないので、全く検討がつかないのですが、その辺の技術的なことで教育していかないといけないのかなと思います。9年間長いだろうと思います。子どもたちが中学校卒業して高等学校へ行った時に、先ほど数田先生がおっしゃっていたような、大きなところで対応できないというような問題が出てくるというようなことになるのではないかと思います。9年間の一貫性というのはもう少し考えた方が良いのではないかと思います。反対ということではなくて、立地的に離島ということもあるので、そういう部分もあるのではないかと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

岡委員をお願いします。

【岡委員】 何回も同じ事を言うのですが、昔、私が小学校1年生で、昭和19年生まれが中学校2年生、その間の人志知中学校から分かれて、御原中学校と三原中学校に分かれ、小学校も2つに分かれました。1年生の時は、まだ広い運動場があったので休み時間になれば毎回運動場に出て走り回って遊んでました。両地区で80人同級生がおりましたので十分楽しく遊びました。分かれて2年生になって飯山寺のお寺へ行きました。あの狭い場所で私たち2年生が43・4人、1つ下の学年が35・6人おりましたので、80人がお寺の狭いところで勉強しました。休み時間に遊ぶといっても80人が境内で遊ばませんでした。走り回ることもできませんでしたので、非常に寂しい思いがありました。2学期になって新校舎ができ喜んでおりましたが、兵舎跡と聞きましたが、古い廃材を使った校舎で、あちこちで板が汚れていましたので、掃除の時間は一生懸命に掃除した覚えがあります。休み時間は遊ばず、全校生が金槌を持って運動場に出て土を叩きました。今のオニマサのようなきれいな土は昔はなく、裏山の先の尖った山土が運動場に入っていたので、すべて転んだら血が出るような運動場でした。休み時間になっても遊ばなかったのですが、先生方もすばらしい先生方でしたし、志知小学校を良い学校にしようということで、一生懸命に志知小学校を造るのにあの当時頑張ったなと思います。高学年になって、やっとその辺もきれいになってきて遊べるようになって、同級生も40何人おりましたのでドッチボールをしたり、あの当時ソフトボールが流行ってまして2チーム作ってソフトボールしたりで、運動場の取り合いみたいな形で、非常に仲よく遊べたなと思います。私たちは1学年40何人いたのですが、今、志知の現状は1桁となっております。私の地域が一番大きな地域だったのですが、小学生が40～50人いたのが今は2人しかおりません。休みの日となれば、遠いところからおじいちゃんに来て、どこかへ連れて行ってもら

うといった感じで、遊ぶ相手もない状態です。今の志知の現状を見たら、寂しい思いがあります。せっかく市長さんが頑張って、陸の港を整備して、駐在所も学校の前に出来て、環境としては非常にすばらしいのに、住民の思いとして志知小学校がなくなるということは、非常に寂しい思いがあります。私も小さい頃から一生懸命頑張って造った学校ですので、寂しい思いはあるのですが、人数の少ないところでは寂しいし可哀そう、可哀そうという言葉に語弊があるかもしれませんが、やはりもっと多くの人と遊ばせてあげたい、勉強させてあげたいと思います。やはり団体競技とか、陸上競技大会でもリレーも出られないし、なかなか厳しい状況だと思います。私が松帆小学校の校長をさせていただいた時に、新校舎ができました。その時にも、志知の方から松帆小学校へ3・4人きておりました。保護者からは「大きなところで良かった」という感想を聞きます。松帆の後、市小学校へ行ったのですが市小学校にも、志知から2・3人きておりました。農協とかで当時の保護者に会ったら、「市小学校へ行って良かったわ」ということを今でも言ってくれます。やはり親の思いの中で、大勢の子どもの中で生活をさせてやりたいという思いがあるのではないかと思います。そういう思いの親が少なからずいるのではないかと思います。私もこの再編の話聞いた時に、大勢の中で学べるチャンスを与えてくれるのではないかと思います、この再編の話に賛成しました。もっともっと志知に住宅等ができて発展していったらいいのという思いを持っております。せっかく陸の港ができて、周辺が活気づいてきている中で、もっと人が集まるような場所にならないかという思いが地元の人間の思いであります。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

宮崎委員お願いします。

**【宮崎委員】** 西淡志知と三原志知に関しまして個人的に思っておりましたのは、この再編によって複式学級が両校解消できればなと思っておりました。小規模校のメリットは十分分かっておりますし、大規模校と言っても今の学校の規模からすれば、2クラスあっても1クラス30～40人くらいになりますので、そんなに大きくはないのかなと思います。その中でも子どもたちの環境とすれば、多感で順応性がある時期に、出来るだけ人数の多い所で子どもたちが、遊びに対しても勉強にしてもスポーツにしても、いろいろところで揉まれて成長していくのが一番かなという気持ちで、今回の合併に対しまして、西淡志知は松帆と、三原志知は市という、より大きな形で合併という教育委員会の案に賛成をしました。やはり一番に考えたのは、子どもの成長に対して何が一番良いのかということ、確かにきめ細かな指導も大事だと思いますし、地域の関わりも大事だと思います。その中でも、一番に子どものことを思って今の案がより良いのかなと思ひ賛成しました。しかし今回、地元の保護者、地域の方から要望書を



出されているということで、この件に関しましても、子どものことを思っただけの動きだと思っておりますので、疎かにできないのかなと思っております。また会の中でも、まだ話合えないといけない課題、校舎問題であったり、中学校問題であったりとかあると聞いております。それも第三者委員会を設けてということで、こちらの資料にもありましたが、地元の意見として「こういうようになったら」というような意見がありましたら、次にいろいろな形の話を進めていく上において、お互いに意見を出し合えるのではないかと思います。

倭文中学校の問題ですが、部活動を優先にという今回の案が出ておりますが、実際に倭文中学校から三原中学校だったり、広田中学校だったりとか、他の中学校で部活動をしたからということで倭文中学校から抜けられる子どもが毎年何名かいらっしゃると聞いております。私の知り合いの保護者も、違う中学校へ行かせて部活動をさせたいということで倭文中学校を離れた方も知っております。倭文中学校を残すという前提の中で、合同部活動という案が出たので、今までこのような話が出たことがなかったもので、これは子どもにとって、倭文中学校にとって良い案なのかなと思っております。複数の選択肢の中から選べるというのは良いのかなと思っておりますが、説明会の内容を聞いておりますと、保護者の方との意見が大分離れてたように感じます。実際にこういうようにしたいというアンケートを取ってほしいという要望が多数あったようなので、今回その話をしながら倭文中学校としては、どういうのがより良いのかということが出てくると思います。私自身としては、合同部活動という案を出したことによって、このようにいろいろな案が出てきたと感じておりますので、この後、アンケートの結果を踏まえて、また話が進むのかなと思っております。

沼島の小中学校に関しましては、地域がらというのもある中で、やはり人口が増えないという中で、「子どもの数」というのは難しい話なのかなと思っております。仕事関係がほとんどが漁業関係の中、人数を増やすというのは、市内いろいろな所から受け入れ態勢をとってという形で沼島小中一貫の魅力が伝わって沼島外から人が増えるような形でこの進め方が生きてくるのかなと思っております。説明会がこの29日にあるということなので、その結果がどういう風になったか知りたいと思っております。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

それでは浅井教育長には、これまでの意見を踏まえてもらって、出来れば今後の進め方について、ご意見していただこうと思っております。

**【浅井教育長】** 今、話が出ていますように、どこをとっても地域のいろいろな意見がある中で、教育委員会の方向性と地域が考える方向性が合致していない部分があります。またそれ以外の課題も非常に多いという中で、教育委員会、総合教育会議でその都度、説明会の現状を報告させてもらいながら、方向性を探っていきたいと思っております。

具体的に言うと、西淡志知・三原志知については、先ほども少し時間を取って話をさせていただきましたけれども、要点が3点ほどあって、長期的に対話を続ける必要があるということが1点、2点目に現在の方向性を今までの議論を現時点では踏まえた方向性が必要であるということ、3点目に、そんな中でも地域から要望書が出てきたので、その要望書をどうするのかという中で、それに対する回答をするという中で、地域との対話を進めていくというような話が出ておりますので、教育長に対する要望書については、回答書を地元の説明したいと思います。その中では、先ほどご意見いただいたように、学校をどうするのか、中学校をどうするのかという大きな課題が残っておりますので、その課題を地域でも議論していただきたいと考えております。その議論の結果を踏まえて、もう一度、教育委員会、総合教育会議で検討していきたいと思っております。

2点目の倭文中学校については、合同部活動という形で出させてもらって、次年度からと考えておりましたけれども、なかなかそこまで意見が地域と合意が出来ておりませんので、次年度からは難しいということで見送りさせていただくということです。ただ、2回目の説明会をした時に、保護者が中心ですけれども、強く「アンケートを取っていただきたい」ということだったので、アンケートの結果を踏まえて、また教育委員会、総合教育会議で議論させていただきたいと思っております。

沼島につきましては、非常に課題もあるということは認識しております。今の人数をどうするのかということで、宮崎委員から提案ありましたように、本土からどういう風に子どもたちを呼び込めるのかということで、そのような方法も考えながら、これから進めていくということになるかと思っております。沼島につきましては、2回目の説明会がまだ終わっておりませんので、その説明会の議論を報告させていただく中で、次の議論が進んでいくというように思っております。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

この問題については、南あわじの委員からのコメントということですが、参考意見ということで、本條委員、狩野委員にコメントがあればということで、お願いできますでしょうか。

**【本條委員】** 先ほどからと、この前の定例教育委員会で南あわじ市の教育委員の方々4名と教育長を含めお話を聞いている中で、最終的には私が意見言える立場ではないのですが、現時点では、數田委員が言われた、長期的な視野でしばらく検討がいるのかなと思っております。地元の立場で考えれば、地域の要望書も配布していただいた中で、今から仮に要望書どおり進むとなれば、学校はどちらにするのかということと、本当に子どものことを考えたら、また再び、小学校6年生の時にどちらの中学校に通うかというすごく大きな選択肢となると思っておりますので、そのあたりを合わせてご回答

いただくというのが望ましいかなと思っております。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

狩野委員お願いします。

【狩野委員】 もし自分の育った母校がなくなるということになると、何とか残してほしいと思うことは当然かなと思いますが、一番考えなければいけないのは、将来を担う子どもたちにとって何が一番良いのか、何が一番幸せなのか、ということかなと思っております。今の子どもたちを見ると、「パワー」というところで気になるところです。子どもたちに自ら生き抜いていく力というものを、どうしたらつけられるのかということなのです。いろいろな波がやってきて、大きな波、小さな波があるのですが、そこでポシャってしまったら何にもならない、だけど強い力というのを持っていたら、親は安心する、それが親の願いでもあると思っております。そのためには、家庭・地域・学校の力というのはすごく求められるのですが、一番教育環境に何が良いのかということ踏まえて議論していくことが良いのかなと思います。そういうことを考えると、本当は2クラス以上というのがやはり理想です。私の現場経験を考えてみても、そう思います。2クラスが無理だとしても、ある程度的人数の中で子どもは育った方が、その形に近づくのではないかなと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

それでは、今までの意見をまとめますと、若干自分の思いも入ってしまうような気もしますが、まず西淡志知・三原志知に関してですが、教育委員会としての望ましい方向については、今の市小学校、それから松帆小学校へそれぞれ統合していくということが望ましいということだったと思います。ただ、他方で地域がまとまって、この2つを一緒にしようということなので、その思いを汲むような機会をつくろう、ということだったと思います。ここにいる行政の関係は、1人しかいないわけですがけれども、地域というのは地域の人たちでつくっていく、つくっていかなければいけない、というように私も思っているところもありますので、そうやって地域が力を合わせてということであれば、少なくともそのチャンスと考えるべきではないかというような気もいたします。他方で私も要望書を見せていただきましたが、課題というのは3つあると思っております。1つはどちらの小学校にするのかということ、もう1つは中学校はどうするのかということ、それからもう1つ、これは事務局の案にも入っていましたが、実際のアンケートで「統合するなら市小学校、あるいは松帆小学校」と言っている方がいる中で、本当に地域としてまとめていけるのか、まとめているのかということ、ここで仮に2つが統合したとして「いやいや実は私はそうは思っていなかったんです」という人がぞろぞろと出てきたとなると、形にならないと思います

ので、そういう点については地域で十分に揉んでいただく必要があるのではないかと思いますので、そういう点を踏まえて、具体的な進め方、回答については、教育長の方でしっかりと検討いただきたいと思いますと思いますが、全体の方向性としては、そういう風に理解させていただいてよろしいでしょうか。

倭文中学校については、宮崎委員の方からお話しがあったかと思いますが、もともとなぜ他の中学校へ行くのかということと部活だったということ、これまでそういう説明がなされていたわけですが、そういうことで前提に案をなげかけてみたら、実態は違っていたと、やはりもっと大きなところで教育をさせたいというお話だったということではあるのですが、もう一度保護者のアンケートを取ってほしいというお話がありましたので、まずはそのアンケートを取って、必ずしも部活だけの話ではなかったという前提でもう一回アンケートを取って、それを前提にもう一回検討するというような段取りにさせていただきたいということによろしいでしょうか。

沼島については、まだ2回目をやっていませんので、これは今の教育委員会の方向性で説明をして、それを踏まえてさらに検討するということで、進めさせていただきたいという風にまとめさせていただきたいと思います。

今までで、何かコメントがあるようでしたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは学校統合問題については、以上とさせていただきたいと思います。

**【守本市長】** 続きまして、第2の議題「今後の教育のあり方について」でございます。

3つの項目がありまして、1つ目は「南あわじ市の教育ビジョン」となっておりますが、どちらかと言えば、行政として教育委員会に投げかけさせていただきたい問題定義という風に受け止めていただきたらと思います。それから2つ目「教職員の働き方改革について」、3つ目「道徳教育の教科化について」は事務局の方から説明させていただくということでございます。

それでは私の方から「南あわじ市の教育ビジョン」ということでお話しさせていただきます。

これは「地域の若者をどうやって育てていくか」ということ、まさに教育者の皆様方が非常にしっかりとご検討いただいているということだと思うのですが、行政の方でどういうことを感じているかということ、人口減少問題という中で、1つは、いかに郷土、自分の故郷というものに対して思いを持っていただくということ、出来れば将来的にそこを支えて行こうという人をつくり出していこうということが1つあります。もう1つについては、これは教育委員の皆様方が考えるという視点とは少し違うかもしれませんが、人口問題というと、若い世代、子育て世代をいかに増やしていくかということが非常に大きな課題になっております。そういう中で、従来は仕事があれば若者は残るといふ風に言われていたわけですが、今の時代、現実には、淡路島の中で

も人手不足で、若い人は喉から手が出るほど欲しいというところでも、実際戻ってこないということになっております。細かい話をすれば、仕事の質であったり、費用水準とかいろいろあると思いますけれども、こちらでの生活水準を考えますと、仕事と生活水準だけを考えて時に、都会での仕事の環境等をとっているとは思えないところでございます。そういう中で、やはり子育て環境、ここで子どもを育てたいと思うかどうかということが、若い人に選ばれる地域の非常に大きな課題として出てきております。

一番有名な例は、海士町（あまちょう）という島根県の島で、これは高校からでしたけれども、非常に強力に教育施策を推進したことによって、全国有数の若者が集まる地域に今なりつつあるということです。そういうところに来られる若い人たちというのは、仕事を求めてくるわけではなく、仕事は自分で作っていると、地域を元気にしながら、良い環境で子育てをしているという実態だというように感じております。そういうところで、南あわじ市としても、そういう形がつかれないものだろうかという思いを非常に強く持っております。

そういう中で、魅力的な教育とは何なのかということは非常に難しいのですが、親としてのこれからの時代を生きていく、そういう子どもを育てる環境というのは何だろうか、強く感じていると思います。これは私がそういう仕事に関わっていたということもありまして、キーワードが3つあると思うのですが、1つは自分から動いていく人間であるということ、その積極性、何事にもチャレンジするということ、2つ目は現実に即して具体的にもの考える人間であること、3つ目は人との協調の中で物事を考えることができること、1つには他の人と共感して自分が動くことができる、あと1つは他の人を共感させることができるということ、そういう人づくりかなと思います。

これを学校教育の中でどう実現するか、もちろん生活の中でどう実現するのかということは行政が考えることでありますけれども、学校の中でということですが、先ほどの3つというのは連動しているのではないかと私は思っております。それは、身近なものに興味を持って自分で何かを調べていく、そういうことでまた人に評価をされて、人に教えたり、頼られる、そういうことでもう一段踏み出そうとする、そういう子どもたちがたくさんいるところ、これは逆に言えば、自分が知らない時には人に教えてもらう、そういうプロセスになると思いますが、そういったプロセスをどうつくっていくのかということが非常に重要だと思います。繰り返しになりますけど、このプロセスは教員の方が何か決まったものを教えていく中では生まれてこない、先生と子どもという中では生まれてこなくてですね、先生は子どもたちが身の回りの中で勉強していく、それを手助けしていく、そういったことかなと思います。

そういった観点で、今具体的に提案していることが、2つございます。3つ目も実はございますが、1つは防災教育ということでございまして、南あわじ市は南海トラ

フ地震で非常に大きな災害が予想されているということで、現実には迫る危機をどう乗り切るかということ、子どもたちが自分で考えて、自分で学んで動いていくという人材を育てる格好の題材、というところ少し不謹慎かもしれませんが、我々は正直こういう風に受け止めております。そういう中でスタートしておりますが、結構良い手応えがあるかなという風に思っております。

それから2点目にやろうとしているのは、郷土芸術、具体的には人形浄瑠璃ですけれども、それを発表しながら、テーマとしては郷土芸術を使って表現力、自己表現、それから他人の表現を受け止める、そういうところを学ぶということが一番の眼目だと思うのですが、少し工夫しようとしているのは、そこに英語もコンピュータも入れてしまえということ、例えば戎舞のセリフを英語で言うとどうなるのかとか、人形浄瑠璃というものを外国の方に説明するとどうなるのかとか、そういうこともALTの先生方と一緒にやっていけるのではないかとということです。それからプログラミング教育ということも言われているわけですが、これは一番可能性が高いということで、おそらくこういう形になっていくだろうと言われていたのは、マインドスポーツですが、あれはある種与えられたロボットなのですが、人形浄瑠璃の世界というのは非常に深いカラクリがありまして、紐を少し動かすだけで顔が変わるということでもありますので、そういうプログラミングをして遊ぼうといったようなことを、具体的に身近なもので勉強していこうという、そういうことが出来ないかということを考えております。1つのコンセプトで、幅広いいろいろな科目が一度に学べるようなものをつくっていったらどうかというようなことを考えているところでございます。これはいわゆる教育コンサルタント的な方に、このカリキュラムづくりをお手伝いしていただきながら進めようということで具体的に動いております。

いま実際にやっているのは、その2つなのですが、3つ目、これはいっぺんになかなか出来ないのですが、もう1つとしてやっていく必要があるのは、淡路島の歴史遺産というものに触れる機会をどういう風につくっていくのかということ、これを思っております。そういうことを勉強するということは、試験のために何かを覚えるということではなくて、自分の身近なものから見て疑問を呈して、それを理解していくという形につながっていけば良いのかなと思っております。また、こういうことを進めていくと、先ほど冒頭で申し上げた、郷土を大事にするというような意識も当然育つというように思いますし、また、ここでしか出来ない教育ということで、都会と比べれば、選択肢は圧倒的に狭いですが、それは公立しかないわけなので、ただ、ここでしか出来ない教育というものを展開できるのではないかとというようなことを思っておりますので、またこれについては、いろいろなご意見をいただきながら、行政と教育で協力していきながら進めていけたらと思っておりますのでございます。

そういうことを投げかけさせていただいて、ご意見いただければと思います。

本條委員からお願いします。

【本條委員】 私自身も、洲本市だけではなく、淡路全体で考えていきたいという思いがあります。そんな中で、少子化は否めない、2050年淡路の人口が半減すると言われている中で、出ていく子どもを止めるということは至難の業で、いろいろな課題があると思います。やはり出たあとも、郷土を誇りに思えるというか、私は人の自慢話は聞きたくないのですが、郷土の自慢話はいくらしても私はいいいのではないかと思います。その中で、先ほど言われたような、淡路の独特の資源はいっぱいあると思います。郷土芸能、淡路人形浄瑠璃、もちろん自然遺産もたくさんありますし、そのあたりを子どもたちが自ら発信できる機会を与えるのが、学校教育かなと思っております。それを参考に出来るのが、5年前に「ふるさと学習」という副読本を教育事務所の方でつくりました。地場産業だけではなく、歴史事項、偉人まで加えて網羅されております。使っているのは、小学校高学年だけなのですが、十分、中学校でも使えるかと思えます。そのあたりも手に取りながら、今後の学習に活かしていただけたらと思えます。そこらを切り口にして、目の前の課題が山積みの中で一步一步、もちろん南あわじ市さんだけではなく、防災教育も淡路全体で考えていかないとならないことがあると思いますし、加えて、今、子どもたちを目の前にした時に、やはり外へ出た時の力強い形を形成していくことが、今後の私たちの責務かと思っております。

【守本市長】 ありがとうございます。

岡員をお願いします。

【岡委員】 2・3年前の教育委員の研修で、洲本の旧益習館へ行き初めて見ました。そのあと、五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡を見ました。南あわじ市には銅鐸があります。やはり行かないと分からないと思います。五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡は山の中ですが、昔の人はこういうような所で頑張っていたのかと、よく分かりましたし、旧益習館の庭園も、昔の人がすばらしいことをやっているなと思えました。やはり遠足で遠いところへ行くより、もっと子どもたちに知らせる機会があればいいのになと思います。鳴門の渦潮もしかりですけれども、やはり子どもたちがそこへ行って見ないことには、「なるほどな」という思いが分かりませんので、機会があれば出来るだけそういう遺跡のある所などへ連れて行ってやれることがあったらいいなと思えました。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

狩野委員をお願いします。

【狩野委員】 学校教育の主な取組みの中で、ネット教育センター整備事業というのがあげられているかと思えます。業務改善として良い取組みだなと思っておりますが、私

自身、便利なものほど危険性を秘めているというのが私の考えです。ある中学校で、高校へ渡す資料に間違いがあったというようなことをニュースで聞きました。データの軽重とかを付けて、中身によって二重チェック体制とかをしていかないと駄目かなと思います。先生方の活用するメリット・デメリットを十分理解したうえで、やはりせっかく作っても活用しないと意味がないので、その辺のところの研修とかを開いていただければといいなと思っております。よろしくをお願いします。

【守本市長】 ありがとうございます。

数田委員をお願いします。

【数田委員】 子育て環境のところの話ですが、南あわじ市の子は非常に保守的というところがあるかなと思います。何十年も前の話ですが、東京の大学へ行った卒業生が、最初の委員を決める時に全員が挙手して「やりたい」と言ったら、地元の高校を卒業した生徒はビックリ仰天してしまったと、高校ではそういうことが一切なくて投票で決めていたと、自分がやりたいことをはっきりと表現できることに感動したと言っておりました。その後どうなったかなと感じているときに、小学3年生の孫が、4月に学校から帰ってきた時に「僕、学級委員になってん」と、「なりたい人は手を挙げて」と先生が言ったら、自分しか手を挙げなかったからなったということでした。小学1年生の頃は「はい！はい！」と言っていたのが、2年・3年となってくると、いろいろなことが抑制されてだんだんとそういうようになっていくのかなと思います。田舎独特なのかしれませんが、それが地域の特徴なのかなとも思いますし、そういう意味では人づくりの中では非常に大事なところが、我々の課題ではないかと思えます。どうしても世間体とかを田舎では言いがちなですから、本来のやりたいことやることがなかなか出来ないとか、いろいろな市民感情の中で、いろいろな身の回りのことを学んでいくのですが、大体外で遊ばない子が多いです。そういう環境が原因とするところがあるのですが、目標として3つが大事なことだどつくづく感じています。自分から動く積極性だとか、それは常に意識しないと出来ないでしょうし、それから、ものを見るということ、それは遺跡を見るということもあります。それから協調性ということです。

それと、今やられている防災教育に人形浄瑠璃とかを使って、もっともっと見る機会を増やしたらいいのではないかと思っております。防災というのは、繰り返し繰り返し、見たり聞いたり体験することで自分のものになっていくと思います。市長さんのお話は非常に納得したので、どんどんその方向で進めていってもらえたらと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。



轟委員をお願いします。

【轟委員】 教育長がよく言っておられる、中・高校の連携とか、小学校の学校訪問へ行っても、出来るだけ視野を広げてくださいますよということはずっと言ってるのですが、子どもたちは学校が終わったら、自分の家だけということが多いので、出来るだけ近隣小学校との入れ替えとか、また見学に行くとか、もしくは中学校を見に行くとか、先ほど岡委員もおっしゃられてましたが、遺跡を学期に1回、2回見に行くとか、昔我々の時は国分寺行ったり、八木でしたので上の方の神社に行ったりだとか、いろいろなところへ、小学校・中学校の時は連れて行ってくれたのですが、今は、ほとんどそういうことはございません。今の小学校の場合は、学期に1回、遠足でイングランドの丘へ行くというような形しかしていません。地域の良い所、悪い所を知るためにも、出来るだけそういう交流をしていくということ、子どもたちを連れて行って、教室で算数・国語の勉強をするだけではなく、いろいろな地域へ1か月に1回でも、2か月に1回でもいいから連れて行って、子どもの視野を広げていけば、自ずとその子どもたちは、小学校・中学校・高等学校と成長していく中において、郷土愛というものが出てくるのではないかと思いますので、先ほど市長が言っておられたように、いろいろな体験を通してやっていけたらいいかなと思います。特に小学校に・中学校にはそういう要望をしたいと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

宮崎委員をお願いします。

【宮崎委員】 始めの方に、人口の減少であったり、南あわじ市の定住であったり話があったのですが、私の子どもが今、高校3年生の男の子で、進学とか進路にあたり話をしたのですが、ゆくゆくは淡路に帰ってきて仕事する気があるのか何気なく訊いたのですが、あまり深く考えていないという答えでした。今の子どもに関しては、進学のと、何処でどう生活するのかということ、あまり深く考えていないのかなと思います。実際、私自身も、その当時は深く考えていなかったかもしれませんが、田舎の長男だったので、何処かで仕事をして、いずれは淡路に帰ってくるんだろうなという思いもあったのですが、今の子に関しては、一度淡路を離れて進学したら、何処でどういう風にしても、あまり深くそこまで考えていないのかなと思います。やはり「地元淡路、南あわじ市には、こういう風な仕事があって、帰ってきたらおもしろいで」というくらいのことを親からも子どもに対して発信していくのも大事なかなと思います。私自身、地元の行事であったり、つき合いであったりは好きな方で、全く苦にならなくて、楽しめる方なので良いのですが、逆にそういう風なのが、今の若い世代にとっては負担になったりするのかなというようなことを感じながら、これから淡路

での職業であったり、定住であったり、子育て世代がどういう風にしていけばいいのかということを考えていかなければいけないと思いました。

また、防災教育ですが、私自身2年前まで、地元の消防団の方に所属しておりました、最低限の防災知識はあるのですが、今の子どもたちにしても、必ず家とか学校で災害にあうとは限らないと思います。「こういう所におった時は、こういうようにせなあかんよ」というようなことを、防災教育の中でいろいろなことを教えていただければありがたいなと思います。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

これは特にまとめる話ではないのですが、最後に教育長お願いします。

**【浅井教育長】** 市長が話されたことで、3点ほど話をさせていただきます。

1点目は、今子どもたちが求められている資質というのは、いろいろな資質を言われてますが、この変化の激しい時代に、それが将来も本当に必要な資質かと言ったら、そうでもないかも分からない、というような時代が来ているということを考えた時に、やはりそのベースになる資質、いわゆる「人としての生き方、あり方」みたいなものを真剣に考える、自分の生き方を持っている、ということが非常に大事なことかなと思います。そのベースの部分がしっかりとしていれば、将来求められる資質がダウンしてたとしても、自分で資質を培っていくような取組みができるのではないかと思います。そういう意味で、どういう風な取組みが南あわじ市にとって必要なのかという観点で考えていきたいということが、まず1点目です。

2点目に、人形浄瑠璃等を活用したコミュニケーション能力の向上であり、コミュニケーションを使っての外国語の表現活動であったり、人間関係を構築する力を付けたりということに繋げていきたいということで、今、コアカリキュラムの取組みを始めようとしています。その一つに、そういうような方法論で終わらずに、事業改善とか働き方改革とか勤務時間の適正化みたいなものにも繋げていけるようなものにしたと思っています。これは難しいかもしれませんが、起業という、自分が京都について知る、それを情報発信できる、そういうようなことで人間関係を構築する力を付ける、その先どうするのかと考えた時に、社会に出ていくということが出てくる、その繋がりの中で、起業するというような要素をその中に一番最後の目標として入れるということが出来ないかなと思いつながら、この前の連合PTAの会で前年度の会長さんの話を聞かせていただきました。起業することが高校生にとって、キャリア教育について一番手っ取り早い道なんだというような話をされました。少し難しいかなと思うのと、中学3年生くらいになったら、そういうような要素も入れた最後の出口みたいなもの、社会へ自分が入っていく、というような観点で繋がれたら良いのかなと思います。今、非常に速いスピードでコアカリキュラムが始まっていますので、この時

期にそれが入れられるのか分かりませんが、将来的にはそのような方法もあるのかなと思いつきながら取組んできたと思っております。

3点目に防災教育ですが、いつも話しているのは、自分の命を守ることが非常に大事なことで、それは身に付けておかなければいけない、ただそれだけではなしに、南あわじ市の防災教育は、人としての生き方、あり方というような防災教育にぜひ繋げてほしいということをおっしゃっております。防災の切り口というのは、伝えていく、広げていく、深めていくということが大きなキーワードではないかと思っておりますけれども、そんな中で、いつも同じようなことをするのはなく、それを少しずつ伝えながら、広げていって、深めていくためにはどんな取組みをしたらいいのかという観点で、いろいろな取組みをさせてもらっています。東日本に淡路三原高校と一緒に防災ジュニアリーダー育成事業ということで、ボランティアに行きますけれども、昨年度は中学生だけだったのが、今年は小学6年生の担当の先生も連れて行きたいと、教員の研修の場にもしたいというような広がりであるとか、明日、舞子高校へ行くのですが、協定を結んでますけれども、南海トラフ地震が起こった時に、阪神淡路大震災と違って直下型ではないので、地震で直接被害を受けるというのは、阪神淡路大震災に比べて非常に少ないと、全然被害がない所と、被害が大きな所と、南あわじ市でさえ分かれるのかなと思っております。そうしたら、被害のない所から、被害のあった所に支援するような仕組みづくり、今考えているのが、倭文中学が沼島中学を応援する、主体的に子どもたちが応援するということです。南淡中学を三原中学の生徒会が支援する、西淡中学は広田中学の生徒会が中心となって支援するという、マンツーマンで支援するというような仕組みづくりを今年つくっていききたい、そこへ舞子高校の生徒が入ってきて、支援するための課題とか、そういうようなものを中学校の生徒会と話しながら、実際起こった時の支援体制を報告していくとか、明日、舞子高校の校長に提案するのですが、今、舞子高校が防災ジュニアリーダーを県下で立ち上げていると、その防災ジュニアリーダーの構想は、山の学校は海辺の学校とマンツーマンで協定を結んで被害のない所が、マンツーマンで支援するような仕組みづくりを考えてみませんかというような提案をさせてもらおうわけですが、そういうことをしながら毎回毎回同じことをするのはなしに、少しずつ広げていながら、南あわじ市の防災教育を進めていきたいと考えております。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

というようなことを考えながら進めておりますので、また、活発なご意見いただければと思います。

それでは次の2つ目、3つ目の「教職員の働き方改革について」「道德教育の教科化について」事務局の方から説明をお願いします。

【山川学校教育課長】 それでは資料7頁をご覧ください。2つまとめて掲載させていただいております。

まず「教職員の働き方改革について」ですが、ここに載せておりますのは、先日行いました、南あわじ市教職員勤務時間適正化検討委員会でまとまった話を主に掲載しております。

今年度の目標といたしまして、1点目、「教職員定時退勤日（ノー残業デー）」の週1回の確実な設定と教職員の意識改革ということで、市役所でもやっておりますノー残業デーというのを各校で設定しております。昨年度の実績は、小学校はかなり100%に近い形ですが、中学校は若干そぐわない時期があります。各校で目標を設定し、ポスターに書いて提示しております。

2点目、部活動の活動目的の明確化と「ノー部活デー」の実施ということで、その下に載せているのは、ノー部活デーの目安です。平日週1日以上、休業日（土・日）月2回以上ということですが、もともとこういう規定だったのですが、はっきりと守られていたのは、トータルで週1回くらいは休んでいたと、トータルで月2回以上は休業日は休んでいたというところ、あるいは第2日曜はノー部活デーだったと、このあたりは今までずっと出来ていたのですが、それをもう1歩進めようというところで、いろいろと進めてまいりましたが、現在のところはこの数字でおさまっています。ただ、その下に書いております「部活動ガイドライン」というのが今月すでに出てきております。これはさらに上の数字が出ておりますので、そこらあたり現場の先生方に今後またその方向を目指してやっていってもらったらと思います。部活動ガイドラインでは週1日がノー部活デー、それから土日毎週どちらか1日をノー部活、時間の設定も出てきております。

3点目、「ノー部活デー」「ノー残業デー」の周知で、いろいろなものを使って周りの方にも理解していただくということです。部活動をやっている、熱心な地域からは、逆に苦情がくるという場合がありますので、周りの方にも理解していただくということです。

4点目、校務・業務の効率化、情報化の推進ということで、来年度よりグループウェアを導入します。さらに33年度からは、校務支援システムの本格実施ということで、それに向けて今、準備をしているところでございます。それがいわゆるネット教育センターに繋がっていくところでございます。

5点目、勤務時間の管理徹底ということで、これは県の方で作成しております「記録簿」というものに本人が記録しております。パソコンで自動で入る部分もありますし、こういう業務をしましたということを記録するように勧めしております。管理職は勤務時間の把握をしっかりしてくださいということでもあります。

なお、今年度重視としまして、学校閉庁日というのを、今年度3日間、お盆時期に設定いたします。

続きまして、「道徳教育の教科化について」ですが、今年度、小学校で本格実施になっております。中学校は来年度となっております。

1点目、「特別の教科 道徳」（道徳科）という形で、うちの方も統一しております。省略的に言う場合は、道徳科というようになります。

2点目、カリキュラム作成時の確認事項としまして、教科書は「主たる教材」であるということを確認しております。道徳を教科書で教えるのかと、現場の先生の中で議論がありましたが、きちっと「教科書」ということで出てきておりますので、それをしっかりと利用するという、それから本市が採用した教科書には「道徳ノート」というのが付いておりますので、それに沿って授業をしてくださいという風に伝えております。兵庫県の方で副読本というものをつくっておりますので、それを確実に入れてくださいということっております。

3点目、道徳家の評価です。個人内評価として記述式で表記しましょうということで、研修を全体で繰返し行い、学校でも行っております。

4点目、道徳教育実践研究事業ということで今年度は、研究発表を西淡中学校と西淡志知小学校の方で行うこととなっております。

以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

それではコメントを、宮崎委員の方からお願いします。

【宮崎委員】 なかなか難しいコメントなんですが、教職員の働き方につきまして、最近部活動の時間とかいうことも、よく新聞にも載っていますし、働き方改革ということもよく聞きます。実際、運動部の部活動を持たれている先生方が時間をこのような形で使うということは、結構な改革というか、転換をしていかなければ、なかなか難しい部活もあるのかなと思います。実際、こういう形ですと決めた以上は、それに向けてしっかりと計画を立てて、また子どもに対しても、こういう風な部活動の時間の取り方をするという話で、子どもたちも自分たちの中で意識を変えて、部活動だけではなくて、自分たちで考えながら動いたら良いのかなというような気がします。ですので、教職員の時間の使い方というのは、これに向けて本当に頑張ってもらえたらなと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

轟委員お願いします。

【轟委員】 教職員の働き方改革というのは難しいですね。我々が現場にいた時は、教育長も同じだと思いますが、休業日などは全然なしで、休業日というのは子どもたちが

疲れた時に、これも休むのも練習だというようなことで、休ませた記憶があるのですが、週に1日以上も休ませた記憶がないんです。ノ一部活デーとか、一日どうしたらいいのかと、時間を持て余すことも多かったのですが、子どもたちも休業日に何をするかということを、実質活動しなくても、本を読んだりとかの形の研究は出来るので、そちらの方向にも進めるのではないかと思います。これから意識を変えてやっていかなければいけないのかなと思います。

道徳教育ですが、昔、我々の時代の道徳というのは、授業の中にあっただけですが、最近、また、道徳の時間があるようで、孫が道徳の本を持って行って一生懸命やっておりますけれど、当然この道徳というのは、人間のマナーを教えるということでは、絶対的に必要なことではないかと思っておりますので、ぜひ、この道徳を重点的にやっていただければ、特に小学校の時にそういう思いやりとかマナーとかを教えておけば、一生の宝になるのではないかと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

数田委員をお願いします。

【数田委員】 部活動に関しては、私も年末年始に1度しか休まないというような部活動をやった人間ですが、現場または子どもたちが徹底すれば、部活動の仕方も変わってくると思います。ただ、昔そのような部活動をした熱心な保護者から、この頃は部活が休みばかりとよく言われます。やはり、そのような感覚の保護者もいてるから、現場としてはなかなか難しいところもあったりするのではないかと思います。子どもたちにとっては、そういう機会は大事なことだと思います。違う視点でものを見たりとかするチャンスだと思うので良いと思います。ただ、その使い方が分からない子ども、ゲームばかりしている子ども、私の経験からですが、休みをずっと欲しがって子どもがいて、休みの日に何をしていたか聞くと、6時間ずっとゲームをやっていたと、そういうようになってしまうので、休みの使い方みたいものを、「勝手にしろ、好きにしろ」というのも良いのですが、上手にしてやることで、もっともっと充実した時間を持てるのではないかと思います。

道徳教育ですが、「ほほえみ」とか「きらめき」とか「明日に生きる」とか、内容的に素晴らしい副読本がたくさんあります。それをもっと、保護者とか、地域の人などにも、読んだり、研修とかに使う機会があればいいなと思いました。淡路教育事務所に2年くらいいたのですが、素晴らしい副読本がたくさん出来ていたので、もったいなと思いました。もっともっといろいろな機会とかで、学校はもちろんですが、保護者とか地域の方々の研修とかに資料として使えたらいいのにと思っています。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

狩野委員お願いします。

【狩野委員】 学校訪問すると、どの学校も、どの教職員も、本当に子どものために時間を惜しまず、一生懸命頑張っているのが現状だと思います。残念なことに、島内でも心の病というか、精神疾患で休まれる方も何人かいてるということも聞いてます。いろいろな問題を一人で抱え込んでしまっているのかなと思ったりもするのですが、その辺は組織のチームとして、SC（スクールカウンセラー）とかSSW（スクールソーシャルワーカー）とか、働き方改革の一環として導入されてますので、チームで取組んで問題の課題解決に向かっていくような組織づくりというのが大事なことだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

岡委員お願いします。

【岡委員】 私も中学校で部活をやってきて、高校の先生と一緒に、盆と正月に少し休みがあるくらいで、我々がやってた当時は、全体的に部活がに盛り上がったというか、どこも活気にあふれた学校だったように思います。勝利至上主義ということになるのかもしれませんが、やはりちょっとでも勝ちたいという思いで続けてきたような状況です。ですので、まったく家の方はほったらかしで、自分の子どもにどれだけ関わったかという、まったくと言ってもいいくらいかなと思います。というようなことで、もう少し考えた部活動というのが出来るようになるのではないかと思います。ただただ練習さえすれば何とかなるというようなところもあったかと思いますが、もっと考えて効率の良い練習というのが、考えられていくのではないかと思います。頭を使うことは良いことだと思います。昔は監督からの命令だけだったのですが、今成功している部活動というのは、子どもたちに考えさせてやっている部活動が、どこも強くなっています。高校もそうだし、中学校もそうです。考えさせる部活動というのも、こういうような機会に盛り上げていってもらえれば良いなと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

本條委員お願いします。

【本條委員】 教職員の働き方改革の大きな課題は、ずっと整理しながら、南あわじ市さんも具体的に取組んでおられるので、即実行していただければと思います。加えて、月曜日（23日）の県教育委員会研修会の中で、三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）の善積という方のお話を聞いた中で、「目からうろこ」といいますか、具体的に印象に残ったのが、「まず先生方の周りを片付けましょう」ということから入

ってたかと思いますが、仕事をきっちりと進めるために整理整頓をするということ、能率悪い・効率悪いというところで、外部から入った時に、職員室が散らかっていると、やはり仕事ができないですからね。次に、先生方の机を1個1個確認したら、山積みになって前の方の顔が見えない、特に気付いたのが、印刷室が乱雑ということ、どこにコピー用紙があるか、なくなった次のコピー用紙はどこか分からない、その時間は全て無駄ということ、決して能率よくやりなさいということではないのですが、順番的に先に印刷室を片付けなさいということ、それから自分たちの周り、自分も身に染みるのですが現職の時は、クラブに行ってるから机は山積みになっていて、成績処理がどこにあるのかとか、無駄なことばかりの繰り返しがあって反省するのですが、そのあたりをまず、私は帰って、学校現場へ流したいなと思っております。

加えて、「校務分掌を見直しませんか」ということ、毎年学校の課題で見直しの検討会をやりますが、淡路の小・中学校が特によく言われる、横並びの串刺し状態の公務分掌、その上につまみみたいに、教頭・校長がいる、いわゆる鍋蓋構造となっている、決してピラミッドが良いとは思いませんが、やはりその辺の責任の所在がはっきりしていない、教務は教務関係で固め、生徒指導は生徒指導で固める、また校外学習などもあるだろうし、そのあたりのリーダーをはっきりと位置付けて、その分は負荷していけば、より効率的にいけるのではないかと思います。そのための主任手当も出ておりますし、主幹教諭の位置付けもされておりますから、つまみみたいに動いては、学校全体はまわりませんから。そんなところを前回の研修会で勉強させていただきました。

3点目の道徳ですが、先ほど市長さんが言われたように、自ら動く積極性だとか、周りを見ながら現実的に動く、それから人と協調しなさいというところは、道徳に全部網羅されていると思います。これもよく言われるのですが、学校の教室の中で勉強している時は子どもたちは良い意見を言う、授業中にいじめる子はいませんから、一歩外へ出た時にいろいろな中でいじめがあったり、いじめと違っていても、遊んでると言いながら弱い子を集団でやっていることも見受けられるので、今回、指導要領の改訂でも言われているように、そういう体験を重視した中で、身を持って、それを自分の中に消化できるような道徳であってほしいと思います。以上です。

**【守本市長】** ありがとうございます。

浅井教育長お願いします。

**【浅井教育長】** 働き方改革ですが、南あわじ市の教育委員会としたら、ネット教育センター、校務支援ソフト、グループウェアを中心とした、ネット教育センターで勤務の適正化をやっていきたい、企業の話であれば、あるシステムを導入したら先生方の勤務時間を年間160時間削減できたという、例も紹介されておりましたので、有効に



活用したいなと思っております。また、コアカリキュラムの開発も、そういうようなところに繋げられるようなコアカリキュラムづくりをしたいと思っております。

部活動ですが、子どもの面と、先生方の面と二つの面があって、今年休みの日を増やしたと、そんなこともあるので、すぐに今年また、スポーツ庁が言うように完全週2日という形になるかどうか分かりませんが、来年はなるだろうと思います。これは県の教育委員会も強い指導が入ると聞いておりますので。そんな中で子どもたちにとったら、自主的な活動が部活動ということで先ほども話がありましたが、主体的に考える部活動に替える時のチャンスなのかなと思っております。また、先生方にとっても、勤務の適正化ということになります。それとプラスアルファ、その時間を自由改善に使っていただける、そういう意味でも、先生方にとっても、大きなチャンスであると、今までの学校の取組みを大きく替えるチャンスである、チャンスにしたいと思っております。

道徳教育につきましては、防災教育で道徳教育をしてほしいということをお願いをしております。「人としての生き方、あり方」と言えるような防災教育をしてほしいと言っておりますので、防災教育の最終の目標は、防災教育で道徳教育をするというように考えております。また、防災教育だけではなく、道徳教育というのは教科書だけで教えて良いですよということにならないと思うのです。いかに先生方が教科書と、身の回りに起こっていることに関して、それを教材化して子どもたちに与えていく、そういうような教材づくりということが非常に大事なのでは考えております。それは先生方の力量を一番試される教科かなと思います。そういう意味では先生方の力を付けていきたいと思っております。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

私からも発言させていただくと、世の中どんどん変わってきてですね、昔の働き方というのは、例えば工場で働くというと、とにかく一定時間頑張って言われたことをやり続けるというようなことだったわけですが、今はそんなことはロボットがやり、将来はまた人工知能がやっていくという中で、そういう機械的なことじゃ出来ないことをどうやって考えて、かつ限られた時間の中でやっていくのかと、競い合うというのは良くない言葉かもしれませんが、それがこれからの人材の主要になっていくと考えると、拘束時間が長ければ良いということではなくて、むしろいかに短い時間でいろいろな工夫をしながら、効果を上げていくかということ、子ども自身にも考えてもらうという、そういう時代になっているのではないかなと私は感じます。

それから、道徳教育の話で、道徳についてだけの話ではないですが、本来教育というのは、いろいろな教科がありますけれども、これは将来生きていく時に、いろいろな教科を勉強してきたことを統合することで、役に立っていく、単に算数だけで商売が出来るわけでももちろんないですし、いろいろなことが混ざり合って、一つの仕

事が出来るというはずなのですが、いつの間にか、受験教育という中で、教科というものがもう1本縦割りになってしまったと、先ほどの私のビジョンも、突き詰めて言ったら、もう1回それが一緒になるように、1つの流れの中で全部のものを使っていくようにと、そんなことを考えていきたいと思いますということなのですが、この道徳についても教科化したことで、もちろん基礎を学ぶことは非常に重要なことですが、教科化したことで、生活なりと独立のものになっていかないように気を付ける必要があるのかなと感じております。こういう時には、こうしないといけないとか口では言っても、その実態がついていかない、そういうことになるとあまり意味がないので、出来るだけ教育の中で、それを実践する場をつくっていくということが大事なのかなと感じております。これは本当に感想です。

**【守本市長】** それでは、貴重なご意見ありがとうございました。

これで本日予定しておりました、協議事項は終了いたしました。その他ということで、何かありましたらお願いします。

**【山川学校教育課長】** 先ほどの教育委員会で説明できておりませんでした、「平成30年度第1回教育推進委員会について」説明させていただきます。

5月1日に第1回教育推進委員会を行っております。これは校長会代表と、教育委員会から教育長、教育指導主事が入って行く会でございます。決定する場ではないのですが、教育委員会の方針を示したり、学校現場からの声をアップしていく中間的な会です。資料の方には、このようなテーマに沿って考えていきましたという形で載せておりますが、各校の課題を出していただいて、市の方針等も見せながら、今年度の方針を話し合ったというところでございます。今後2か月に1回程度の会を予定しております。以上です。

**【中村教育総務課長】** 先ほどの教育委員会の中で以下のところの、「平成30年度主要事業の進捗状況について」と「当面の行事予定」また「教育委員会後援名義使用許可の報告」といったところまで進むことができませんでしたが、これにつきましては、お配りの資料に添付しておりますので、またご確認をよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

**【守本市長】** 以上、本日予定しておりました、協議事項、その他について終了させていただきますと思ひます。本日は大変活発なご意見をいただきまして、おかげ様で、実り多い会となったと思ひております。御礼申し上げます。また傍聴の方も、長時間、ご清聴ありがとうございました。今後、皆さま方の、ますますご健勝、ご活躍をご祈念申し上げますとともに、また、私共も一層、この教育行政に一生懸命取り組んでいくと

いうことを申し上げまして、第1回の総合教育会議を閉じさせていただきたいと思  
います。

本日は誠にありがとうございました。

閉　　会　　午後0時05分